

社会資本総合整備計画 事後評価書

番号	計画の成果目標（定量的指標） 定量的指標の定義及び算定式	定量的指標の現況及び目標値		
		当初現況値	中間目標値	最終目標値
		1 : H21 2. 3 : H27		R4
1	駅前広場施設の不満足度 駅前広場の施設状況に関する市民アンケートで「あまり良くない」、「非常に良くない」の割合。	77.3%		50.0%
2	野崎駅へのアクセス時間（徒歩） 野崎駅西側の住宅地（国道170号高架下）から駅までの徒歩によるアクセス時間。	5.4分		1.8分
3	子育て世代の公園の利用率 子育て世代へのアンケート調査で「公園を利用しますか。」との質問に「利用する」と回答を得た割合。	68.5%		80.0%
4				
5				
6				

備考等	個別施設計画を含む	—	国土強靭化を含む	—	定住自立圏を含む	—	連携中枢都市圏を含む	—	流域水循環計画を含む	—	地域再生計画を含む	—
-----	-----------	---	----------	---	----------	---	------------	---	------------	---	-----------	---

事後評価

○事後評価の実施体制、実施時期

事後評価の実施体制	事後評価の実施時期
<ul style="list-style-type: none"> ・事業課が主管課となり、事業に関わる関係課による事業成果を整理、今後の整備施設の利活用を検討を行う。（庁内の横断的な組織編成） ・学識経験者、商工会、一般公募等により構成する事後評価委員会を設置し運用。 	令和5年度
	公表の方法

○事業効果の発現状況

定量的指標に関連する 交付対象事業の効果の発現状況	<ul style="list-style-type: none"> ・駅前空間の利便性向上が課題であったが、東西駅前広場の整備や東西間をつなぐ自由通路の整備等により、駅前空間の交通利便性が大幅に向上した。 ・公園施設の老朽化による施設整備が課題であったが、野崎中公園の再整備により、子育て世代を中心とする多様な世代の交流の場となり賑わいの形成が図れた。
定量的指標以外の交付対象事業の効果の発現状況（必要に応じて記述）	<ul style="list-style-type: none"> ・一連の整備により駅利用等に関する交通利便性の向上、交流空間の強化により、駅周辺のにぎわいが新たに生まれつつある。

○特記事項（今後の方針等）

- ・駅周辺のさらなる交通利便性の向上・交流空間の強化のため、接続する周辺道路等のハード整備を継続して行うとともにソフト施策も視野にいれ、本市の都市拠点として相応しい安全・安心で魅力ある駅前空間の創出を図る。
- ・野崎駅周辺総合計画推進協議会において、今後も意見交換等を行い、地域の事業計画を円滑に実施できるように努めていく。
- ・公共施設・用地を利活用したまちづくりを検討する等により、さらなるエリア価値の向上を目指す。

○目標値の達成状況			
番号	指標（略称）		
	目標値／実績値	目標値と実績値に差が出た要因	
1	駅前広場施設の不満足度		東西駅前広場の整備や東西間をつなぐ自由通路の整備等により、駅利用者の利便性が大幅に向上し、目標達成に至った。
	最終目標値	50.0%	
2	野崎駅へのアクセス時間（徒歩）		
	最終目標値	1.8分	野崎駅の駅舎橋上化・自由通路・駅前広場の整備により、駅西部からのアクセス性が各段に向上し、目標達成に至った。
	最終実績値	1.8分	
3	子育て世代の公園の利用率		
	最終目標値	80.0%	アンケート調査の結果より全世代対象の利用率では65.6%となったが、回答者の年代が50代以上の割合が多かったこと、従前値の調査において40代以下の回答率が97.3%であったこと、また、40代以下は子育て世代の中心層であることより、今回の調査結果を40代以下とした場合、利用率は77.0%となる。これより目標値には届かなかったものの、子育て世代の公園の利用率に寄与した。
	最終実績値	77.0%	
4	最終目標値		
	最終実績値		
5	最終目標値		
	最終実績値		
6	最終目標値		
	最終実績値		